

取付・取扱い上の注意

取付・取扱い上の注意

- 温度センサーのケーブル(補償導線・延長導線)は必ず受信計器の端子に接続して下さい。
電源に接続すると温度センサーやケーブルが発熱し、高温となり、事故の原因となります。
- 温度センサーを乱暴に取り扱わないでください。投げたり、落下させることによる衝撃が原因で正確な温度測定ができなくなる事があります。
- 導線の接続の際には極性を十分確認の上、行って下さい。
- 導線接続後、端子筐の蓋は確実に閉めて下さい。
- ネジおよびフランジの接続は確実に行って下さい。
ネジで接続の場合は、テーパネジにはシールテープ又はシール剤を、平行ねじの場合にはガスケットを用い、必ずスパナで締め付けて下さい。フランジ接続の場合は必ず指定されたガスケットを用い均等にボルトを締め付けて下さい。
保護管へのセンサーのねじ込み部分は、現地で必ず増し締めを行って下さい。
- 測定物の温度を忠実に、変化に対して迅速に伝える場所及び取付け方法を選定して下さい。
- シース型温度センサーの曲げる箇所と曲げ半径に注意して下さい。
シース型温度センサーはシース外径の2倍の半径まで曲げ加工が可能ですが、戻すと破損する事があります。現地でシースを曲げる場合は、安全のためシース外径の5倍程度以上の半径で曲げて下さい。また、シース測温抵抗体の先端部には抵抗素子が入っていますので先端から100mmは絶対に曲げないで下さい。
- 樹脂固定接続(スリーブ)のリード線は、スリーブの近傍では無理に曲げないで下さい。
- 磁製部分は急熱、急冷を避けて下さい。熱ショックによる破損のおそれがあります。取付に当たっては予熱をするか時間を掛けて行って下さい。
- リード線は強く引っ張らないで下さい。接続部で断線するおそれがあります。

保守・点検上の注意

- 保守・点検・交換時は運転停止と常温・常圧を確認してから行って下さい。
またその際に測定箇所から引き抜いた温度センサーの感应部を安易に触らないでください。
- 定期的(推奨6カ月)に機械的点検を行って下さい。
ボルト・プラグ・フランジ・保護管・端子の締付け箇所や電線の振動等による断線の確認等を行って下さい。
- 温度センサーは脂質や異物の付着、接続や接触の状態等に注意して製作しておりますから、解体や、改造はしないで下さい。
- 機械装置に取付けられた温度センサーを足場や支持具にしないで下さい。
- 耐熱仕様の指定がない製品については、温度センサーと導線の接続部の温度は90℃以下に保って下さい。
- 耐圧防爆型温度センサーは現場での分解・修理は行わないでください。
国家検定を受けた構造で製造している為、安全確保の為メーカーでの修理以外認められていません。

保管上の注意

- 温度センサーの絶縁抵抗は測定精度に大きく影響します。保管に当たっては振動、ゴミ、湿気等の少ない場所を選定して保管して下さい。

廃棄上の注意

- 不要になった温度センサーは産業廃棄物として処理して下さい。

製品保証

- 本製品は当社の厳選なる検査に合格したものです。納入日より一年の間で、当社の製造上における不良については、無償で修理又は交換します。万が一、当社の責任の故障であっても、システムの保障までは致しかねますのでご容赦ください。
- 本取扱説明書の内容は、製品改良のため予告なく変更する場合がありますのでご了承ください。